

## 学びの風景(24)

2022. 8. 7(日)

### 1次関数の攻略方法

さて、1次関数の難問を解く力をつけるには、どんな学習を積みばいいのか。そのためには、3つの戦略が必要です。

- (1) どんな問題が解けるようになればいいのかを知ること。
- (2) どんな教材を使って、どのような順序で学習したらいいのかを知ること。
- (3) 学習管理をどのように進めるのか。

一つずつ見ていきましょう。

#### (1) どんな問題が解けるようになればいいのか

学習する問題の範囲とレベルの選択基準は山形県の高校入試出題問題の範囲とレベルです。入試に出ない易しい問題や超ムズ問題は学習する必要はありません。時間の無駄です。

(ただし、数学が大好きで難問に挑戦することを生きがいとしている人は別ですが…(\*^\_^\*)\)

山形県の1次関数の入試出題問題は、大きく分けて3つのジャンルから出題されます。

- ①動点と面積の問題
- ②速さとダイヤグラムの問題
- ③水量変化の問題

\* その他、直線と面積、正方形の形成問題など細かな問題がありますが、まず、3つの大きなジャンルの問題は、どんな問題が出題されても解けるようにしておく必要があります。

では、どのようにして「学習計画書」を作るか。

素人では無理です。つくれません。そもそも、入試問題の分析ができないからです。

ここは受験プロから作ってもらうしかありません。

数専ゼミの「学習計画書」を紹介しましょう。 → [Link](#) | 1次関数の学習計画書 |

#### (2) 教材の選択と学習順序

数専ゼミの「学習計画書」は、すでに学習すべき教材と学習順序を含んでいます。

この「学習計画書」の順に解法を学習し、問題を演習していくことで、入試問題を解くための十分な基礎技術を習得することができます(山形県の入試出題問題も一部に含まれています)。

1次関数の教材の一部を紹介しましょう。 → [Link](#) | 1次関数の教材 |

### (3) 学習管理をどのように進めるのか

数専ゼミの「学習計画書」は、計画書であると同時に、学習の進捗管理表かつ学力の到達度管理表となっております。

すでに述べたように、「問題を解きました、解けない問題も解けるようになりました」では、なんの力もつきません。

確実に解けるようにならなければなりません。

そのためには、解けなかった問題は、答案の書き方を練習し、必ず点検する必要があります。

「学習計画書」の右端の「到達度」の欄が学習管理、到達度の記録欄となっています。

解けた問題には○をつけ、その後に解いた日付を書いておきます。間違った問題には×をつけ、同様に日付を書いておきます。

×の問題は、答案を書く練習をし、次週にもう一度解きます。

解けたら○、解けなかったら×を記録します。3回までチェックします。それ以降は何回やっても無駄です。その問題は捨てます。その問題は解けないということです。くり返す時間が無駄です。

ただし、答案を書く練習をしないで3回間違えることは含みません。練習しなければ解けないのは当然です。その場合は、答案を書く練習してから、もう一度チェックします。

ここを間違えないことが大切です。

学習記録の実物サンプルはこちらから → [Link](#) | 方程式の学習計画書 |

## 過去問を解く

基礎学習を終えたら入試出題問題を解きます。

実戦力をつけます。

出た問題はすべて解けるようにしておくことは、入試対策の”第1歩”です。

これについては、次回にお話ししましょう。

**受験勉強を科学する数専ゼミの数学教室です。**

### 数専ゼミ・山形東原教室

〒990-0034 山形市東原町二丁目10番8号

TEL: **(023)633-1086** / FAX: (023)633-1094

メールアドレス: [suusen@seagreen.ocn.ne.jp](mailto:suusen@seagreen.ocn.ne.jp)